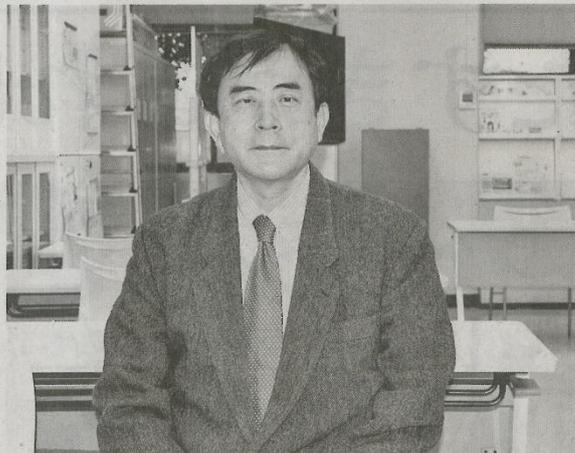


# 岡山、広島 産科2施設 受診妊婦400人調査

妊産婦の支援に取り組む岡山大学院保健学研究科の中塚幹也教授。岡山市北区鹿田町の岡山大学医学部で。



岡山大学院保健学研究科

## 中塚幹也教授に聞く

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、妊娠中や出産後の女性が孤立しやすい状況に陥っている。岡山大学院保健学研究科の中塚幹也教授(59)らが岡山、広島の産科2施設で受診した妊婦400人を対象にした調査によると、約4割の妊婦が「新型コロナウイルス感染拡大で精神的に不安定になったと感じる」と回答した。感染防止のために里帰りを自粛したり、友人に会うのを控えるなど人とのつながりが失われる中で妊産婦はどのように過ごせばいいのか。長年、妊産婦の支援に取り組む中塚教授に妊産婦のうつに関する問題や頼るべき支援などについて聞いた。

【松室花実】

# 妊産婦のうつ 誰にでも

「産後うつ」などの言葉はよく耳にしますが、具体的にはどのような症状なのでしょうか。

◆妊婦や出産により生理的な変化が起き、ホルモンバランスが急に変化して精神的に不安定になることをいいます。また、育児のストレスや仕事との両立、夫との関係の悪化など複合的な要素が合わさって、誰にでも起こりうることです。国立成育医療研究センターなどのチームの調査結果では妊産婦の死因の中で自殺が最も高かった

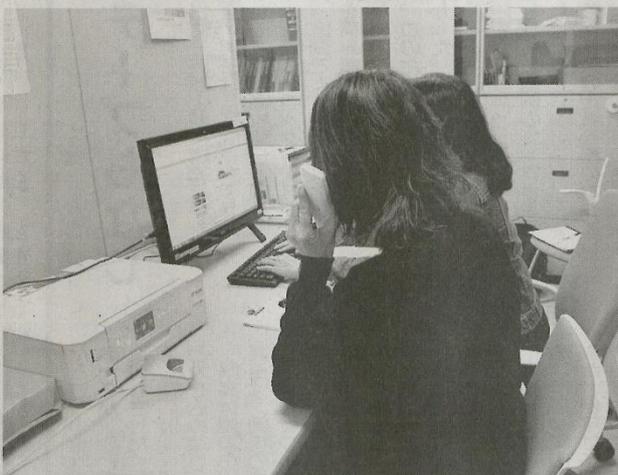
## チェック体制の整備進む

「産後うつ」はどのように診断されるのでしょうか。

◆岡山県では2011年から県産婦人科医会が「妊娠中からの気になる母子支援センター」を設けて、妊産婦のうつはどのように診断されるのでしょうか。

「エンジンバラ産後うつ病質問票」(EPDS)という自己記入式の間診票を使うなど、チェック体制の整備は多くの自治体で進められています。

というデータもあります。出産後の子どもへの虐待や母親の自殺が社会問題になるなど「産後うつ」が指摘されますが、妊娠初期や後期などうつになるリスクは時期にかかわらずあります。



おかやま妊婦・出産サポートセンターの「妊娠・安心相談室」には不安を抱える妊産婦から電話がかかってくる。岡山市北区鹿田町の岡山大学鹿田キャンパス内。

## 悩み相談 気軽に連絡を 電話、メールやオンラインも可

「おかやま妊婦・出産サポートセンター」は県からの委託を受けて岡山大学院保健学研究科が同大鹿田キャンパスで運営している。

妊娠や出産についての悩みを受け付ける「妊娠・安心相談室」では助産師、社会福祉士、医師などの相談員が対応する。現在は新型コロナウイルス感染防止のため対面相談は中止しているが、電話相談は月・火・水・金曜日の午前9時～正午まで、メールは毎日24時間受け付けており、希望者はZoomでのオンライン相談も可能。

最近「母親学級がなくなり出産の情報が得られない」や「受診している

病院で感染者が出てしまいどうすればいいかわからない」などの新型コロナ関連の相談も多く寄せられているという。

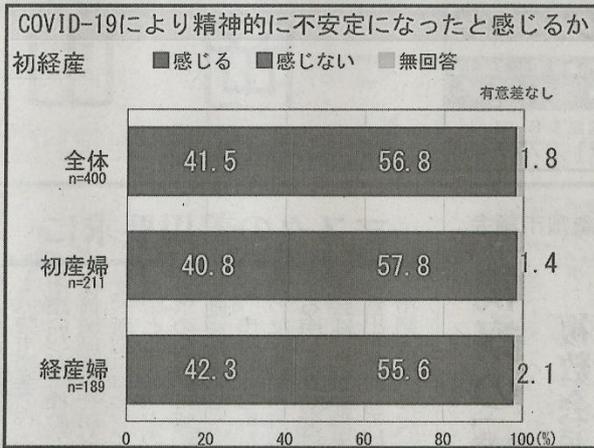
相談員の女性は「話すのが苦手な人は『赤ちゃんの夜泣きを聞きたくない』、『助けてほしい』など一言メールを送ってくれるだけでも構わない。きつと私たちにお手伝いできることがあるので気軽に連絡してほしい」と話している。

◇連絡先◇  
電話 086・235・7899  
メール ninshin@okayama-u.ac.jp

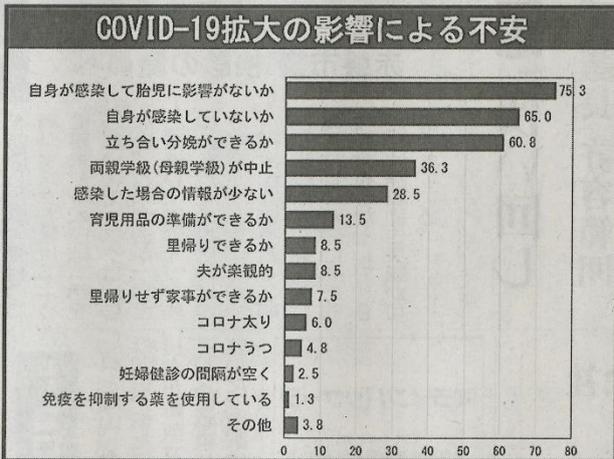
# コロナ禍で増す不安

新型コロナウイルスは妊産婦にどのような影響を与えていますか。

◆我々が6〜8月に行った調査では妊娠30週以降の妊婦のうち12%が里帰り出へへの不安、36%が「母親学級やめた」と回答しました。また、新型コロナウイルスの感染拡大による不安のうち75%が「自身が感染して胎児に影響しないか」など感染への不安、59%が「母親学級やめた」と回答し、35歳以上の初産婦に高い傾向があるのも特徴的です。以前なら検診の待ち合室で妊婦同士で友人になる機会などもありました。今は接触を避けるため、特に35歳以上の初産婦に、不安と回答して高い傾向があるのも特徴的です。以前なら検診の待ち合室で妊婦同士で友人になる機会などもありました。今は接触を避けるため



中塚幹也教授らが実施したアンケート結果。新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大によって精神的に不安定になったと感じる妊婦は約4割を占める。いずれも中塚教授提供



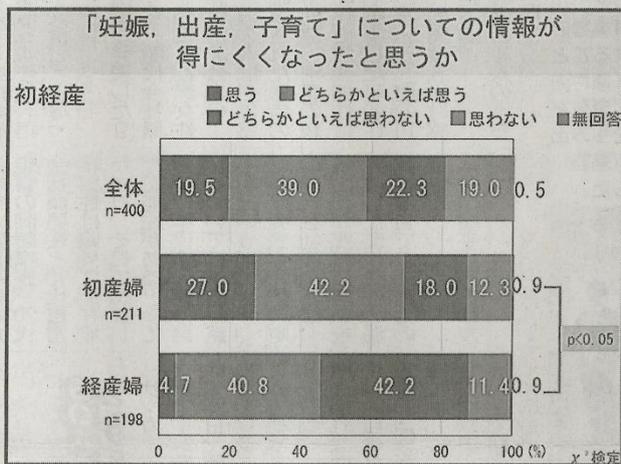
新型コロナウイルス感染拡大の影響で不安に感じる妊婦についての調査結果

## 「感染時、胎児への影響」75%懸念

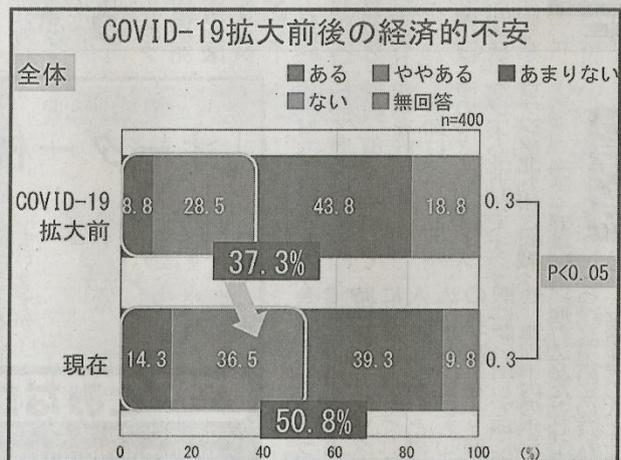
そのような機会も失われています。さらに経済的不安も深刻です。経済的不安が「ある」「ややある」と答えた人が、感染拡大前の37%から50%超に増えています。

## 情報不足、経済面も深刻

「妊娠、出産、子育て」についての情報が得にくくなったと思うか



新型コロナウイルス感染拡大によって情報を得にくくなった妊婦は全体で約4割を占める



新型コロナウイルス感染拡大による経済的不安についての調査結果

電話やメールでの相談を受け付けており、連日相談が寄せられています。こうした支援を活用すべきです。さらに身近に妊婦がいる家族は今まで以上に気にかけてください。そして妊産婦の味方になってほしいと思います。